京城新聞

寄書

大宗教

不言生

宗教は人類の胎未を照すの光あり此の光なる宗教に燈火の如きあり太陽の如きあり未開時代に行はるゝ宗教は燈火の如し今日以後開明に行はるゝの宗教は太陽の如し十九世紀以前は個人主義を取るの時なり以後は共同的團体主義を取るの時なり政治も職業も共同的團体主義を尊らさんとするの時なり所謂個人的人文一變して世界的人文將に來らんとするの時なり故に宗教も個人主義を去つて共同的國家主義を取るべきなり國家主義の宗教とはそも何ぞや佛教なるか基督教なるか抑も又神道なるか

凡そ宗教は人々の職に存す故に如何なる宗教が世界の宗教を統一せんかは如何なる國家が世界を統一せんかを究めざる可からず露ならむか英ならむか米ならむか佛ならむか獨ならむか乃至支那ならむか否々然らず彼等は其君主に於て其不適當なるを見る苟も之れが君主たらむものは自立の君主ならず人立の君主ならず天立の君主ならざる可からず而して此の天立の君主は世界廣しと雖も萬國多しと雖も我 皇國の 天皇を置いて他に求む可からざるなり

伏して案ずるに世界の君主皆姓氏を有す姓氏は符號なり符號を有するものは絕對にあらずして相對なり君し夫れ絕對たらんか符號の必要何の處にかある我 天皇陛下には絕對に在しますが故へに符號たる姓氏を有したまはざるなり此の一端を拜し奉りても他に其例なき特主の君主たること明なり而して斯る 皇國に古來より吾皇國と始終を倶にするものは佛教ならず基督教ならずして神道なり神道は明かに世界の教義を統一するの大宗教たることを信じて疑はざるなり斯く云はゞ人或は云はん神道は宗教にあらずと、余曰く是れ神道を狹義に解するものゝ言なり、余は廣義に解して神道は宗教なりと云はんとす、宗教の定義に曰く宗教とは有限の人類をして無限を感得せしむるものなり之れに依て安心立命を得せしめんと、神道は有限相對界の人類をして無限絕對界なる神界を感得せしめ之れに依て安心立命を得せしむるものなり是れ明かに宗教なり豈に宗教と名づく可からざるの理あらんや只だ佛耶二教の如く信仰箇條を設けざるのみ個人主義ならざるのみ死後靈魂の歸着安定を說かざるのみ其内容を點檢すれば儒教も道教も佛教も耶蘇教も此中にありて一も惟神の理に漏ることあるなし故へに余は祭祀に奉仕するの神道を以て廣義に解して宗教となし而かも世界の宗教を統一するの大宗教なりと云ふ所以なり

俳句

白露集

●七印

鶸子鳴たる山田の入日哉 田結
古寺に木を斫る音や百舌の聲 松花
百舌啼くや婁傾く屋敷跡 可醉
山土の松今朝近し秋の晴 三鶏
捨られた笠三野末に案子哉 松花



(卅一) 川合柳葉

家扶の大山は、侯爵の煩悶爲始めた其原因は確かに其と察しは爲たもの、何も素知らぬ体に、

「誠に困つた事でございます、左樣な事から致して御病氣が重るやうな事にでもなりますると、第一御屋敷へ申譯がございません、しかし假令申譯がないに致しました所で御病氣には換られませんが一体奈何遊ばしたと有仰るのでございます、どうか明さまに打明て聞せなすつて下さい。」

「貴樣が然う眞面目で云ふと、何だか些と面目なくて言ひ兼る次第だが、マア左に右話すから宜からうやうに取斗つて下れ。」

「うりやアもう仰せらるゝまでもございません私に取斗らはれまするこどなら如何なる事でも御病氣には換られませんゆゑ、必然取斗らひまするでございます。」

侯爵は有繋に言ひ難いかして些つと躊躇つたが、又思ひ決つた如き樣子で、

「實はね、些と面目ない話だが、昨日遊びに往つた彼の宗匠の宅で、給仕に出て來た宗匠の妹だがね、奈何云ふものか一目見た時から、呼々愛らしい女も世には居るものだと、つくづくと身に沁みたのが戀の原因となつて、昨夜此宿へ還つてからも、全く其姿が目に殘つて忘れられないのだ、マア然う笑つて下れるな、眞個の事を話すのぢや、それから床に就いた處が、夢ともなく現ともなく彼の女が予の側に來て、何かと世話を爲て下れる、其の容子の淑で奈何見ても俳句の宗匠位の家で育つた女とは見れないのだ、同族の家にでも彼れ程の容貌さ彼れ程の行儀正しい女は恐らくあるまいと思はれた、其れやこれやで昨夜は夜一夜マンヂリとも爲なかつたが、曉方になつてトロトロと眠つたと思ふと、疲が出たと見ねてグツスリ眠つて目が覺めたのは漸て九時にならうと云ふ時だつた。ところが、床を離れると不思議な事には又彼の女の姿が目前にチラツイて、奈何忘れやうと思つても忘れる事がならないのだ、奈何かして忘れやうと思へば、氣が晴くなつて庭に出て運動爲て見る勇氣も出ないぢや、この樣子で見ると眞個彼の女のために一つ病氣が加はつたやうなもので、迚も容易には治るまいと思ふのだか、何か宜い工夫は無いであらうか。」

「どうも飛んでもない御病氣が起りましてございますなア、成程仰せの通り、御同族中にも彼れだけの美人は、如何探しました所であるものではございません、美人と云ふ評判になつて居りまする、士師伯爵の御令嬢でも、松平子爵の御令妹でも迚も競べものにはならないでございます。御前の御意に召しましたも決して無理さは存じませんが、何と申すも對手は高が宗匠の妹、貴族中での名門たる御室侯爵の御對手に致さるべき身分ではございません、されば申して妾、側女には痩ても枯れても宗匠を爲る程の男ですから、到底應ずる筈もございませず、殊に私が供をして參りながら御病氣御保養中に、かゝる事があつたと申しましては、御屋敷へ對して申譯の言葉もございませんゆゑ、お心は爲々お察し申上げますが、此事ばかりはどうぞ御斷念遊ばしまするやう、平にお願ひ致します。」



▲無料紹介欄▼

人事部

●傳授 秘護製造法秘訣傳授したし 姓名在社(卅一)
●韓語に精通し飜譯の經驗ある青年事業家の事務員又は語學教師として雇はれたし薄給不厭地方出張所可 氏名在社(三二)
●女記者 一名至急雇入たし希望者は履歴書携帶申込あれ 某日報社(三三)
●十四五の女家事手傳へに至急雇ひたし 氏名在社(三六)
●旅館か料理屋の帳場に被雇たし 姓名在社(三七)
●被雇度 年齢三十朝鮮語に至極熟練の者にて普通教育ある者 氏名在社(四一)
●求職 年齢卅歳中等教育を受たる男子會社の事務員及商店の記帳方に雇れたし但通勤にても宿家にても宜し 姓名在社(四二)
●人を捜す 旭町一丁目に住する遠藤といへる人にて女琪速こ新出を出願せる方に至急面會したし 福岡 安ツル子(四〇)
●求職 体健の青年高等教育あつて韓語に通ず相當の給料にて就職を望む但し確實なる保證人あり 姓名在社(三九)
●質素なる家庭に疊二三枚若しくはオンドル一間借り受け家族同等の待遇にて下宿したし 姓名在社(四三)
●被雇度 旅館料理店又は商店の帳場に雇はれ度し其他余り勞力を要せぬ事向にても宜し保證人あり 姓名在社(四四)
●普通學教師を望む 某專門學校出身者午前中或は夜間學校教師を望む就中英語簿記に通ず 姓名在社(四五)
●年二十四教育有簿記精通商店經驗有午後自四時朝九時迄執務如何を不論就務し度し可成家庭的衛生等望 姓名在社(四六)
●被雇度 年廿三才にして普通教育有商業の經驗も有會社又は通勤商店員に雇はれたし 姓名在社(五〇)
●被雇度 中等教育あり商店又は會社等に雇はれたし 姓名在社(五一)
●被雇度 簿記學全科を修め銀行業に從事せし事十年銀行會社に雇はれたし 姓名在社(五二)
●女雇入 容系普通十四才以上廿六歳以下女至急入用、依望、學問及琴曲を習得せしむ、給料面談南山町三の九六琴曲教場伊藤 佐藤牛四郎氏よ住所を報知ありたし 係
●年十八才より二十五才迄の店員二名至急雇入たし有望の者は本社令福迄(五六)
●毎日曜日を除き毎夜午後八時より憩鶴に英語を教授す月謝壹圓束脩を要せず ロの出町百十八番 英學塾(五四)
●新聞社の校正係又は外交員を希望年三十五元刑事且つ活版事業に經驗ある者 姓名在社(五八)
●年十五高等小學卒業銀行會社役所の給仕又は商店員に雇はれたし 姓名在社(五九)

物件部

●貸家 明治町大韓日報社前家貸八圓と九圓の疊建具付貸家四軒あり 南山町二 曾我(三五)
●借地 明治町三丁目憲兵隊附近にて二十坪餘の貸地を求む(但裏通にて可) 京城本町八丁目 吉田傳次(三八)
●從來開業中の處突然歸國の不得已に付醫療機械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡し度し 姓名在社(四七)
●馬二頭 賣たし 本町七丁目 京城一六競賣所
●古本 買入れたし 本町七丁目 秋田屋(四九)
●蓄音機 讓たし但附屬品付二個あり 社内 坂
●電話至急買たし 社内 島村(五七)
●貸地 一古市町韓國畜產株式會社近傍約六十坪 古市町九番戸 小縣(五五)
●旭町一丁目通濟寺十五番地所附(出七十坪)安價に讓りたし 姓名在社(六十)

京城評論

移住農民の撰擇法

各國の殖民政策を通觀するに何れも施設する所は周到にして大膽なり、唯夫れ列國の思惑のみを氣遣て何事も小心翼々たるに於ては優勝劣敗の今世に於て容易に自國の發展を期すべからず、國際關係の復雜なる中に處して悠々自國の發展を策するこそ優者なり、帝國の殖民政策を見るに常に卑屈に流れ毫も堂々たる大國の態度なし、其施設多くは小細工的に傾き更に雄大なる所なきは頗る遺憾なり、現に韓國經營に就ても然り、外觀に現はるゝ所によりて察するに帝國百年の大策に非ずして概して眼前の小策に汲々たるの傾向なくんばあらず、千載一遇の好機を逸するに非ざるやを疑はしむ、故に論議す所住を斷を缺く、昨者東洋拓殖會社の移住農民の選擇法として傳ふる所を聞くに之れ亦極て迂愚狹隘なり、曰く質朴にして農事に經驗ある農民を撰擇して韓國の指導に當らしむる筈なり撰擇方法は各府縣に支店又は出張所を置きて移住希望者の書類を受付しめ地方長官郡區長に人物の調査を依賴し刑餘の者若しくは素行修らざる者又は一時の出稼を目的となす者は排斥すと云々と、何ぞ夫れ撰擇法の御役所的にして迂濶なるや、若し夫れ植民地を以て神の國とし、極樂國となすならば或は此撰擇法も可ならん、苟も大陸經營の任に當らんとする帝國の植民策としては餘に聖人的なりと見ずや各國殖民地の移住者を、英領濠州は如何、露領西比利亞は如何、果して斯る究屈なる撰擇法によりて素行の修りたる品格ある移民を送りしか、否多くは之れ自由移民なり、無賴漢も刑餘の者も併存して美事に殖民地を經營せり、西比利亞の如きは却て徒刑殖民の成績よし、斯く云はゞ韓國は無賴の移住民にては韓人指導に害ありと云はん、然り余輩も亦之を同一視するものに非ざるも殖民地的經營をなすと云ふ事に就ては何人も異論なからん、而して其發展を期するに於ては斯る撰擇法によりては到底其目的を達する能はず、清濁併呑の概なかる可らず、韓人に對し將た列國人に對し氣象する爲に斯る迂愚狹隘の撰擇により移民を送るが如きことを爲さば到底殖民地的の經營は難事なり、良民を拔粹して移住せしめんとするも、言で之に應ずるもの幾何ありや、殖民地的經營をなさゞれば此偏狹の撰擇法も可なり、されど帝國の使命たる大陸經營をなさんとならば斯る姑息の手段を採る可らず、韓國人と雜居せるを以て撰擇を要するとの考もあらんが獨逸人の波蘭に於ける經營を見よ、良民拔粹に非ざるも何等の障害なし、殖民地に於ける成効者を檢すれば多くは祖國の喰詰者にして裸一貫の人なり、此等裸一貫の人は能く困難に打克ち一意成功に熱中す、祖國に於て多少の資あり信用あるものは少しの困難に遭遇するときは望郷の念を起し之れ何れの所に於ても喰詰者の成功する所以なり、既に成功して恒産を有するに恒心は生ずるなり、其地に於て成功したるものは概して永住者となるは當然なり、斯の如きは各國殖民地の狀態に通ずるものゝ能く知る所なり、殖民地の基礎は全く此等の成功者によりて固定するなり、之れを度外視して殖民地的經營をなさんとすれば失敗すべし、當局者は宜しく眼前の小策を弄することなく雄大なる施設をなすべきなり

●對星樓茶話

△近時韓人間に於ける思想の變遷程敏速なるは無し、吾人が寛大なる帝國政策や、悠長なる帝國官憲を[illegible]する間に於て韓人間には[illegible]以て新刊書を讀み[illegible]しつゝあり、新論議を工夫しつゝあり、宗主國に對する彼の反抗的精神が形式に於て賢明となり、穩和となりつゝある間に於て、其精神上に一種不可測の基盤を作りつゝあるは最近韓人間に於て最大事件なりとす、又最新事件なりとす。

△吾人は統監府並に全帝國國民に向つて警告す、現在に於て如何なる書籍や思想は、何人によりて作成せられ、如何なる迷[illegible]にて如何なる思想を以て之を歡迎しつゝあるかを知るや否やの質問也、[illegible]極めて迅速に傳播[illegible]度を以て擴がり[illegible]新刊物の賣高を調査しても其一般を[illegible]し得べし、蓋し其秘密出刊、乃至取締[illegible]出刊物に就て仔細に看了すれば、吾[illegible]

△京畿以西に於ける非賣品の出版物に[illegible]しつゝあることは[illegible]王論に就て聯想す[illegible]反して我帝國の殖民[illegible]經營に就て寂異悲哀[illegible]に絕叫するあれば[illegible]て統監政治の一た[illegible]ずや、比し來りて[illegible]上に於て殖民禍を[illegible]

△彼の韓人拓殖委[illegible]き、彼等は申譯的[illegible]にせよ、今日の申[illegible]論ずるの子弟を作[illegible]

△斯る狀態を以て[illegible]て發育せられるに[illegible]在に少しも疑問あ[illegible]ち保護政策の將來[illegible]るの杞憂を棄つる[illegible]思想が傳播したりと吾人は保護權の存[illegible]將來は則して樂觀すべからざるなり。

△「ヨボ尊重」は入[illegible]國尊重」は必しも[illegible]意なれども「ヨボ[illegible]本意に非ず。

東京電報

▲米國委員の來着 米國より來道の日本博覽會事務官一行來着す

▲救恤金の御下賜 兩陛下には過日大雨の際四谷區其の他に崖崩れありて死傷者を出したりと聞召され救恤のため金八百圓下賜さる

▲拓殖韓人理事 東洋拓殖株式會社理事中一名は韓國委員中より任命するに決す(以上二日發)

●漁業法の發布

韓國政府が漁業法を發布して此れを日韓漁業者に適用する事になすべきは幾に報導したる處にして其の法案の內容も簡單に掲載し置きたるが右の法案は既に一度參與官會議を經たるも此れを日本人に適用する事に關し現在の日韓通漁條約の改正其の他日本政府と豫め打合を遂ぐ可き必要ありて木內次官と協議を爲したる結果圓滿に終了したるを以て近々同次官歸任の上發布の手續に至るべく同時に日韓通漁條約の改正を見るべしと云ふ

●內部の明年度豫算

地方行政の刷新を企圖する結果明年度の內部豫算は一般に增加を要する趣きなるが今其の新要求の重なるものは警務局主管に於ては水上警察の新設普通警察の擴張地方局に於ては各道並に各部中の重なるものに日本人主事の任命土木局に於ては本年度より繼續工事たる六大道路の外全國幹線道路の改修全國河川の調査木浦上水道工事の補助衛生局に於ては地方港灣の要地に傳染病隔離舍を新設する等にして近々部議として確定の上度支部に要求する筈にて尚副觀察使新設の件は果して明年度より實行し得るや否や未定なりと云ふ因みに豫算に大關係ある地方費徵收の件は內部にて起草したる案に就き目下度支部との間に研究中にして此亦明年度より實行し得るや否や不明なるを以て豫算は此の規則發布に關係なく計上すと云ふ

●學部の明年度豫算

學部が明年度豫算に新要求として計上する主なるものを聞くに左の如し

△實業學校の新設 全國に教育の觀念發達したる機とし國民に實業思想を注文するの必要を感ずるを以て實業學校令を制定し十三道に實業學校を設立する計畫

△高等學校の資料 現在の高等學校の教科目に實科(農科商科工科)を加へて實際的人物を養成し且つ入學希望者多きを以て現在一學年一學級なるを一學年二學級とし從て校地校舍を擴張するの計畫

△外國語學校の擴張 外國語學校は日英獨佛漢の諸語科を教授せるが各科共教室不完全なるを以て擴張する事因みに平壤仁川に日語學校なるものあるも普通學校を設けて日語を教科目に加へられたる今日其の存續の必要無きを以て土地の狀況に從ひ或は高等學校又は實業學校に改む

△高等女學校の新築 本年開校したる高等女學校は校舍狹隘なるを以て適當なる校地を選定して新築す

●葉錢整理成績

從來慣習に依り韓南市場に流通し居れる葉錢は今年七月一日より法貨と認められ其價格を一枚二厘と算定されたるが元來該貨は需給の關係上相場一定せず且つ補助貨たる本質を脫して純然たる本位貨の作用を爲し居り之が引上整理は財政經濟上より見るも一日も緩ふする能はざる次第なるが今政府が該貨の引上開始後九月中旬に至る回收成績を見るに十三万六千七百十三貫此の整理費二十四万五千三百七十七圓に達し居れり又去る七月一日交換率を廿割に引上げたる以後の回收額は五万三千百九十一貫此の整理費二万六千五百九十五圓に達し居れり而して現在市場流通額は正確なる統計なきを以て其正數を知る能はざるも少くも百五十萬貫を下らざるべく從つて之か整理の實を擧ぐるは尚前途遼遠と云ふべし(未完)

●滿韓の本邦紙幣

滿韓地方に流通し居れる本邦兌換券は大約七百萬圓なるが既往の例に徵すれば年末には八百萬圓位に增加の見込ありて之れが爲め日本銀行兌換券の增發を來すは寧ろ喜ぶべき徵候と云ふべし然るに滿洲に於ける銀券の流通は捗々しからず最近の報告に依れば二百萬圓位にして軍票の回收も亦豫期の如くならず何ほ二百萬圓の流通を見つゝあるを以て當局者は目下滿洲の幣制に就て研究中なれば遠からず何とか決せらるべし

●赤十字社業務擴張

日本赤十字社各地委員部にては今月下旬總委員部第一回總會を開催せられ本社代表者の臨場等あるを機とし此際管內社員の未納年醵金の整理日韓篤志者の入社取纏め等に着手する筈なるが京城仁川等の各委員部にては不日市內幹部關係者を會し新舊社員の誘導方等に就き種々協議を遂ぐる由なり

●赤十字仁川支部委員會 五日午後八時より赤十字社仁川支部委員會を開き會務擴張方針につき協議する筈

●愛國婦人會彙報

▲本部長の依賴 討伐隊諸氏慰問品寄贈方に關し鶴原本部長は此程駐劄軍司令官幹國內部大臣及憲兵隊長宛の書狀を提出し慰問品交付方を依賴したりとさ

韓國暴徒討伐の爲め各地に駐在せらるゝ軍隊憲兵警察官諸氏に對し鄉か慰藉の意を表する爲め當本部に於て慰問品寄贈の計畫を爲し候處東京本會府縣各支部並韓國各委員部の賛同援助する所となり今般七十余萬の會員有志中に於て熱誠なる同情を以て調製したる慰問袋並紀念繪葉書を直接間接討伐に從事せられたる諸氏二萬三千余名に寄附することに相成候間御交付方可然御取計相成度云々

▲救護部會 來五日午後一時半愛國婦人會京城倶樂部に於て救護部會を開く由なるが當日は村田少將北韓騎馬旅行談藤田軍醫部長等の講話ある由なり

▲釜山委員部の活動 釜山愛國婦人會役員諸氏は先般來討伐軍隊慰問金品の取纏め及歸還軍隊渡韓將卒中釜山を通過する諸氏に對し適當なる個所に送迎所を設くる等熱心奔走中なるが尚同委員部にては釜山委員部長始め各夫人諸氏此際多數會員の增募に盡力し盛大なる總會をも開催せんとて目下計畫中なりと

●議員選擧彙報

▲選擧界の大勢 一日一日と總選擧期日の切迫するに付いつもならば所謂運動員なるものが今頃は縱橫に奔走して有權者は如何なる人々に投票すべきか殆んど判斷に苦しみ始める次第なるに本年は何しろ期成同盟會が官撰令撤廢の目的を達する手段として豫撰候補者二十名を立てたることなれば之等二十名の候補者諸氏は當撰疑なかるべく尤も自ら豫選會に出席して投票に加はりたる人々の中自家が豫撰に洩れたるを遺憾とし他に一旗を飜して豫撰候補者に對し競爭を試みんとする者もある由なれども思ふに之等の人々の心事の如何は別として其擧動は全然無謀なりと云わざるべからず何となれば今日にては假令二三の野心家が如何に騷げばとて大勢には抗すべからざる故に成べく虛心平氣となり眞に居留民の代表者と認むるに足るべき人物に向て投票すること肝要なりとは某紳士の談なり

▲熊谷民長の迷惑 或一部の運動者は自ら熊谷民長の依賴を受けたりと稱し某々の二三氏に投票せんことを目下各有權者に向つて勸誘しつゝありとの事なるが民長自身にとりては實に迷惑の事なるべし

▲東部の模樣 東部選擧區は到つて平穩にて二三の不平連が如何に運動するも有權者の一致鞏固なれば到底物になるべくもあらず又各豫選候補者諸氏は大勢と共に動く外には別段運動がましきことはなさずと云ふ

▲西部の模樣 西部選擧區は有權者數の多き割合に其間に乘せんとする野心家も起る次第なるが今回の豫選候補者の配置は南大門通より本町筋、南山町、明治町に掛け有權者の數に準じて爲されたるものなれば假令二十や三十の票數を裂きたりとてソレが爲大勢に影響する樣なことは萬一にも無きが如し

●仁川港外潮流調査

仁川港灣改良の準備調査として建築所仁川出張所に於いて[illegible]港の潮流調査をなし目下海底地質調査を繼續し居れるが今回外港に於ける潮流の調査を開始し既に所員は外港にて調査をなし居れるが本年中に海底地質調査終了と共に同調査も完成する豫定なりと

●浚渫船と仁川港

目下釜山にて港灣浚渫工事に從事し居たる撈揚浚渫船三艘は本年中に同工事の一先完成するを以て暫時不用となる由なるが度支部建築所に於いては來年度右三艘の浚渫船を何れに廻航せしむるやは未だ決定し居らざる由なるが別項記載の如く仁川港の築港準備調査は本年中に完成するを以て其の結果に由り或は仁川に廻航するやも計らずと因に同浚渫船の撈揚額は一屯なれば一日作業時間を十時間とする時は約五十坪の土砂を穿鑿し得る由なるが目下釜山にて一日三十坪の土砂を穿鑿し居れりと云ふ

●輸出入金銀貨額 先月中仁川稅關を經過したる輸出入金銀貨額を聞くに輸出は地金八百圓ありたるのみにして銀貨は更になく輸入は金貨は皆無なりしも銀貨は中旬日本より十錢銀貨三十萬圓の輸入ありたる爲め非常なる額に登り支那より輸入せる馬蹄銀及舊圓貨を合すれば三十二万四千七百五十圓なりしと

●衛戍病院の移轉

永樂町一丁目に在る駐韓軍衛戍病院は明五日より龍山なる新築病院に移轉する筈なり右に付大和町二丁目に在りし陸軍衛生材料倉庫は既に數日前より毀撤し昨日悉皆終了したりと云ふ尙目聞く所に依れば衛戍病院跡は憲兵隊本部に充てらるべしと

●鐵道管理局の移轉期 南大門停車場前なる鐵道管理局は十一月上旬龍山に移轉す

●十八支店長の更任

釜山支店長 足立瀧二郎(舊仁川支店長)
仁川支店長 石田信一郎(舊釜山支店長)
元山支店長 掛井 生治(舊京城支店次席)
羅州出張所長 井上 乙熊(舊木浦支店次席)
掛井氏後任には元山在勤中西喜久男氏(法學士)來任の筈

●足立支店長と仁川人士 十數年間仁川十八銀行支店長たりし足立瀧次郎氏は今回釜山支店長と交替し本月下旬赴任する由なるが氏が在勤中仁川公私の爲めに盡されたる功績尠少ならず仁川人士は何れも氏の赴任を惜み居れり

●岡運輸部長の臺灣行 來る廿四日臺灣鐵道全通式に參列の爲め同運輸部長は十五日頃出發渡臺せられ歸途南滿鐵道を視察すべしと又統監府書記官兒玉秀雄氏も同樣參列せらる由にて東京より直に渡臺せらるると

●漢城病院醫員着任 京都醫科大學推撰にて漢城病院耳鼻咽喉科主任に石田誠氏を聘傭し一日着任せり尚同氏の談によれば耳鼻咽喉科は日進月歩の勢を以て進步し近來療法も一新せるを以て從來の漢城病院備付器にては完全にあらざるより新に器械等購入したれば專心新進の醫術により治療に應すべしと

●柳田農商工部技師歸任 雲山地方の山林視察のため出張中なりし柳田農商工部技師は一昨夜歸任せり

●商事局技師兼任 統監府技手伊東[illegible]七郎氏は三十日附を以て商事局技師に兼任せられ高等官八等に敍せられたり

公人私人

▲今坂善助(東京被服廠一等主計) 滯京中の所一昨日龍山に出張

▲江口又男(步兵第十三聯隊附中尉) は金化より入京一昨日龍山へ出張

▲新秋中庸(南滿鐵道會社員) 一昨日來京山本旅館投宿

▲山內定直(尙州駐在步兵第四十七聯隊第一大隊長少佐) 一昨日來京浦尾旅館投宿

▲永井繁太(步兵第十三聯隊附少尉) 一昨日來京浦尾旅館

●近事片々

▲昨日 舊曆の菊の節句今や菊花の眞盛り愛菊家は各種の鉢植を陳列して樂むならん

▲菊花 は世界の通り花となれり北はペテルスブルクより南は布哇まで盛に栽培せり

▲地方 は斷髮勵行にて人民大に騷ぎ立ち斷髮期成同盟會起れりと噂ありヨボ大奮發

▲地方 に依りては二千人も徒黨して斷髮に反抗す郡守等大に恐怖し居る所もあると

▲斷髮 勵行にては何時も大反抗あり廿九年俞吉濬の內相たりしときも之で失敗せり

▲歷史 は繰返すと云ふが韓國の斷髮は何時も同一事を繰返して直に元に戻るが例也

▲民團 議員撰擧は始る期成同盟會の外に一派起りて之に對抗せんとするは事實にや

▲其派 鋼を聞くに松永大村林田田中等なりと排し豫選會候補者の方が人物揃ひ居る

▲今更 に感情の爲に別に一派を押立てゝ對抗する如きは甚だ感心が出來ぬ喃なり

▲撰擧 者は小異を捨てゝ大同するの事公心なかる可らず宜しく一致の步調を取れよ

▲伊藤 公も愈々十五日頭出發歸任のよし今度は延びる事もあるまいと果して然る乎

▲伊公 歸任の上は例に依りて曾禰副統監は東上するならん韓國經營は猪も呑氣千萬

▲曾禰 子の去就は今に尙ほ懸案問題なるも伊公歸任の上ならでは模樣不分明なり

▲恐らく は副統監に居据りならん夫れ曾禰子は韓國經營に從事し幾へ退かぬ決心也

▲鶴原 歸任の說は亦立消へとなり辭職して實業界に入て辣手腕を揮ふとの說もあり

▲曾禰 子の去就も鶴原君の辭職も別に意に介せざるも唯對韓策の進張こそ望しけれ

▲併し 余り小刀細工を弄する官僚の在任は甚だ困る要する所の者は只大手腕のみ也

▲比律 賓の志士アギナルド氣焰を吐きて曰くルーズベルトの廿年後の獨立說は政略

▲豈夫 れ廿年の歲月を俟たんや余は五六年後には獨立せしめんと訪者を吹き飛ばす

▲英國 の諸新聞法庫門鐵道に就て頻に日本の對滿策に警告する所あるも要領を得ず

▲日本 は列國人も排斥せず小心翼々南滿經營をなす耳不足は此方よりこそ申上たし

▲雜誌 朝鮮十月號出づ例によりて面白し時事評論及主張は將さに精讀するの値あり

▲菊池 長風氏の十五年間の韓客提記ヒマラヤ山人の人物月旦記の品評面白し

舊友（六）

青楓作

細川れ、妨に七年、思ひは何時も彼の君を慕ふにありき、アヽ彼の君、妾を恨みてん、妾此の恨みを解くによすがもなく、獨り悶々に苦しみしよ。

「細田樣は、さぞ妾を怨んで居れ出でせうね」

藤枝は、絹手巾を嚙み締めて、そつと雪子を見上げるのである。

「否、細田樣は貴女を恨むなんて、少しもそんな御樣子がありませんわ、却つて藤枝さんには濟まなかつたと彼仰つてよ、藤枝さんの一生を誤らしたのは、僕の罪です、此の社會に僕と云ふものが居なかつたら、藤枝さんは立派に成功が出來たでしやうにとね、さう仰有つてよ」

「マア勿体ないことを……」

「そしてね藤枝さん、細田樣は又斯ふ仰有るんですよ、アノ僕は成程戀に破れました戀に破れて一時に世を果敢なみ、學校を退め、又世の中を惡魔の社會と呪つて見ましたが、併し夫は皆んな僕の薄志から來た譯で、敢て藤枝さんの罪じやありません、僕が自ら招いた曲み根生の結果ですと何處迄も藤枝さんに氣の毒であると言はれてよ」

「何處迄で消いれ心なんでせうか」

藤枝は、陶然として、遠く早稻田田圃に、戀を語りし時代が沁み〲と偲ばれるのであつた。

「妾細田樣にお別れしましてからと云ふものは、此の小さきハートは、悶に閉ぢ籠められてね、如何かして此の悶から去りたいものと、九段のメソヂスト教會にも、せつせと通つて見ましたが、それに音樂などもやつてみましたが、却つて煩悶に攻められるばかりで、到底バイブルやミユジックによつて救ひをもとめることが出來なかつたですわ」

雪子は、言葉もなく、默念として、憐な藤枝の顔を眺めるばかりである。

「それで妾は、細田樣にもう一度お目にかゝりお詫を申して、ならうことなら、一生……」

後は涙に言ひ淀んで、藤枝は、下俯いて仕舞ふ。

雪子は、藤枝と細田との關係を實現さした開して世にも埋れて居た此の二人の佳人と才子とを、再び活きたる社會に紹介して見度いと、夫にも謀り、細田の意中を探つて見たのである。夫は無論大賛成であつた。細田は別に藤枝を恨むでもなく、却つて彼を戀して居る位であるから、藤枝の返答の否やによつて決定することであると、雪子は猶も夫と相談することゝなつたのである。雪子は自ら藤枝を訪れることゝ相談した上で、雪子は聞いて見ると、藤枝の意中を、これも亦細田を戀ひ慕ふて居るので、雪子は私かに喜んだのである。

「ア、細田樣と百年の苦樂を共になさるなど仰有るの、結構ですわ、妾の希ふところよ若しそうなされば、貴女も細田樣も幸福な生活が出來ますわね、妾如何程に嬉しいか知れませんわ、村田もさぞ喜ぶでせうよ、妾から細田樣にもよく申しますわ、貴女承諾して下さるでせうね」

「ハイ何にも角も貴女に御任せ申してよ」

藤枝は、辛ふじて斯く言つた。

雪子が、万事を胸裡に含んで藤枝の宅を出たのは西日の晒を染めて、空行く雲歩の緊い頃であつた。

●狂言離別の段

明治町一丁目明治館といふ下宿屋の裏通りに池田某とかいふ若夫婦住めるが此の若夫婦朝鮮三界迄出掛けて來て甚麼いふ料簡かは知らねど見受くる所平常の常職とてはなく朝から晩迄溫突の中にスッコンで雨が降らうが風が吹かうがソンナ事には一向頓着なくモウ夜が明けたか位の暢氣さ加減定めし三分五厘の浮世を茶にして渡らんとする氣か何うかは知らねど兎も角井戶側會議の喝左衞門達の取り取りの噂を左に揭げんに、土臺此の若夫婦は去月初旬頃迄長谷川町の溫突に住ひ居りしが何ちらも若き血潮の思ひ思はるゝ仲も至つて深く餘所の見る眼もうらやましき程なりしがヤハリ其の時分から男の方は何の爲すこともなく終日女房と共に巫山戲散らして空しく勿体ない月日を送り居る中或る晩のこと若夫婦は何ういふ話の成り行きからかは知らねど一時分れて暮すことゝなり一ツの月を西東といふ喇叭節の文句を其の儘に實行することゝなりしかば夫婦のものはセメテ分れの杯をと互に酌み交はす胸の中も何うやら斯う芝居の分れの場見たやうにも見ねていとゞ哀れにも覺ねられしが頓て妻はセキ上ぐる淚をソッと襦袢の袖で拭ひソンナラ貴郞身体を大切に今から行つて參ります……と進まぬ足を運ばして表の出口迄行きし行姿を蹤てより凝つて見送り居りし男は今更ながら溜らずなりオヽ女房今一度顏見せて與れ分るゝれ前も辛からうが後に殘さるゝわしの切なさは何とも彼とも言ひやうなく併し之れも浮世の習ひれ前も身体を大切にして……と其の場の愁嘆は宜しくありて互に愛に分れしがサテ面妖なのは此の一時分れた筈の若夫婦が翌日になりて又々一所になり今度は今の所に引き移りて情緒喃々每日〱巫山戲散らし居るとか

●酌婦の主人泣かせ

豐前國小倉生れ山崎ツ子（二十）は韓國向きの女には持つて來いにて此れ迄も多年內地で男を引き掛ける道を研究した結果大分達者となつたので此の腕前ならばと自分も許し兩親も認めて三十九年九月親讓りの武器と天晴れの手腕とを賴りに開城に赴き早速同地の料理屋に住み込みて有ッ丈の腕を振い色に傚れたデレ助をタラしては金を絞りたる結果相當に貯金も出來た所からマヅ田舍稼ぎは此所等で切り上げんと四十年二月京城に來り本町肥前屋に酌婦として雇はれたるが何うも此の料理屋は自分の性に合はぬソレに庭が狹くて褌の干し場がないのに厭氣が差し同年六月龍山遊樂亭に前借金六十圓にて住み替へしが其の當時龍山に北村一派開演中なりしかばツ子は每晩〱芝居見物よりも役者見物に現を拔かし居りしは宜きも或る時ツ子は雪隱の中にて獨り熟く〲考ふるやうオラーまアだ生れてから役者ちうものを買つた事がチー那のツラ昨夜村長樣の倅になつた色の斯う生白い役者と苦勞がして見ていだが……と惚れ込んだのが一座の中の中村千之介とかいふ馬の脚なるがサテツ子の思ひは樂するより早く叶ひ果は中村に逆せ詰めし結果愛に細からぬ心を起し先の前借金六十圓の外に自分の衣物やら金目のものを龍山の質屋に叩き込み兩人手に手を取つて駈け落ちと時代めいた濡幕を演じ一足飛びに平壤に赴き一先づ同地の旅館にど潛伏したり（つゞく）

●兵士韓人を突く

一昨夜午後九時頃銅峴警署內竹洞七統一戶朴須明（三十）なるものが南署竹洞の大通にて何かの行き違ひより通行の某韓人と衝突し頓て二言三言口論を交わ居りし際突然一名の日本兵士朴の後方より現はれ來るよと見る間に物をも言はず朴の腰部をば銃劍もて衝き其の儘何れへか逃亡せしとはサテも怪からぬ兵士なる哉

●女房の情夫狂ひ

愛本町二丁目の或る商店の妻君は性れついての浮氣者にてトテモ一人の御亭では辛抱が出來ず之れ迄も大分亭主の眼を忍んでは男狂ひに浮身を窶し現に此の間迄は某役所の雇と道ならぬ稜重ねをなし居りしが近頃はスッカリ右の男に愛想をつかして了ひ又々旭町一丁目邊に住み居るある會社員に關係をつけ折柄御亭の留守中なるを好いしほとして意茶つき居り朝から晩迄化粧三昧に餘念なくソレに先妻の子をば烈しく苛め心の中にては何うかして御亭の野郎が歸韓の際船が沈沒して玄海灘で死んで了ひば宜いと祈り居るとかの近頃感心しない投書舞ひ込みたり

●客氣が深い

南大門外に龍田組といふ運送屋がある此所に每日通勤する背の高い色男の新橋といふ鼻下長あり此男中々の粋樣で東の方は新町山遊樓の一室に未は北の方へ向き直るべく石よりも金よりも堅い約束ある房子となん云ふスコブル別嬪の誤娼も餘るどいふが其の長月月の間乾度欠かさず每週の土曜は房子の許へ誤參詣の誤氣魂殊に明日は秋月他所に見るべきに非ずとなし虫の鳴く音の薬末の露のそれよりもいと繁く誤發展なるにぞ房子も今は愈々末いまでの夫と喜び居る由なるが同樓の娼に此んな事を知語いた新婚さんのヂンキ深いのには恐ろしくて他の客にすまない……

●ヨボの珠數繋ぎ

南大門外李根明宅の溫突にて一昨夜十一時頃八人でも行ふ如くパチ〱と音するにぞ巡回中の巡査が窃かに窺ひしに韓人三名が車座になつて金を賭けての博奕最中なりしかば直ちに踏み込み引つ捕へたが此者共は根部方の雇人李龍泰、金春明、白璽玉といふ者にて何れも珠數繋ぎとなり警察署へオソカー

●醉漢拘束

住所不定の廣中在藏（二四）は一昨日午後四時頃皇帝御歸還警衞中南大門通りにて大に酩酊なし足も四途路の半狂亂果ては如何なる失態を加へんも計り難しとて南部警察署へ引致し留置したり

●此花の科料

南山町一丁目四十番地待合業大坂府平民木村寛治（三四）は去月二十八日午後九時情死未遂犯の主人公たる小池錦二等を宿泊せしめたる廉により科料一圓に處せらる

●腸窒扶斯

京城壽町三十八番地深堀恒夫（十九）寄風谷十八統八戶遠山佐吉（三九）は一日腸窒扶斯に罹り青坡病院に送らる

●九月中の屠殺類

九月中に於ける各屠殺場にて屠殺せし牛の類は百八十六頭にして豚は三百二十七頭なり而して此屠殺税は二百五十圓四十錢なり

●「朝鮮」第二卷第二號

寫眞版の鮮麗なる材料の豐富なる記事の淸新なる觀察の犀利なる流石は韓國唯一の大雜誌たるに背かずといふべし內容は「時事評論」「評林」「主張」「論說」「名流談話」「人物評判記」「雜纂」等外數項に分ちあるが何れも有益にして趣味多く韓國を研究せんとするものゝ好羅針盤なり（一部二十錢京城本町日韓書房發行）

●消防演習

本日午前八時より新町巡査派出所前に於て京城消防組の實地演習をなすにより合圖の警鐘を亂打するを以て火事と早合點せぬ樣注意すべし

●本願寺の日曜說教

本日午後七時三十分より長谷川町西本願寺にて伊藤開教使の說教あり

●日曜說敎

理事廳橫なる日本メソヂスト敎會に於て左の說敎あり傍聽隨意なり

朝九時、聖書研究△同十時、禮拜說教師米國宣教師ヒツチアー氏△同七時、傳道說教曾田嘉伊智氏

●和將臺奏樂堂

京城樂友會が居留民慰安の目的を以て建設に着手したる奏樂堂は來る十月五六日頃に工事終了し同月十一日午後二時を期し落成式擧行の由其の位置は公園噴水の傍にして眺望絕佳の處にあり其の形狀は八角形にして一片の長さ六尺高さ劍先まで約三十餘尺あり其費額約九百圓なりと云ふ

●京城基督敎會

日の出町なる同敎會にては今回韓國視察の爲め來韓せる日本共勵會特派員ペテー博士及澤谷辰次郎氏を迎へて本日左の集會を催す、參聽隨意なり

一、午前九時　日曜學校
一、午前十時　禮拜說教ペテー博士
一、午後七時半　說教澤谷氏

尚は同敎會にては今夜說教後兩氏歡迎會を催す由なり

●狂句　聞何娛欄（八）

（情死未遂）　魚友痴史

▲小池錦二　錦てふ立派な已のが名を汚し
▲仲居政子　命懸け小池に深くはまり込み
▲此花主人　花の主人散さぬ樣に氣を配る
▲長野刑事　捕繩でいのちの網を繋ぎとめ

●天氣豫報（自三日午後六時至四日午後六時）

晴れ後曇り

二日午前六時各地氣象槪況　高氣壓は全國を被ひ一般靜穩にして西海岸及北東海岸は曇天なれども其他は晴天なり



新講談

女俠秋瑾の傳(五)

「我の恩巡撫を殺したのは、元より私怨あつてのことではない。我の彼れを殺したのは、他に一大事があるからである。我は革命黨員だ。我は先づ恩銘を殺して、更に端方、鐵良、徐世昌等をも殺さうと思つたので。學堂の諸生は元より何等の關係がない。速に我を殺せ。」

と臆面もなく述べ立てた。

其所で直ちに東轅門附近に引立て、徐錫麟を仰向けになし、腹を斷割つて臓を引出し恩巡撫の靈を祭つた上、更に首級を斬つて轅門に梟し、目る者をして「英雄今安くに在る」の感を深からしめたが、官人はそれにも慊らでや、翌二十七日裸體の胴と首とを戸板に乘せて、北關門外の刑場に運び半月以上も暴尸にした。

徐錫麟の處刑を終へた晩、漸く恩巡撫の喪を發したが、何んとなく市中が物騒なので臆病神に魅かれた官人等は、各安き心もなく、先づ人心を沈靜せしむる手段として、撫院の名にて一片の告諭文を街の辻々に貼り出した。それを讀んで見ると。

巡警學堂全體知悉。今午操を閲するの際。變倉卒に生ず。衆目睹る所。徐錫麟一人の行爲に係り。全體と干なし。爾等切に妄動すること勿れ。特に諭す。

だが斯んなことではまだ〳〵安心が出來ぬと云ふので、高官等は殆んど申合せたやうに病と稱して面會を謝絶り、縱令公事であつても一切面談をせずに、悉く書面で以て事務を辨じ、夜は十時の時計がチンと鳴るが最後、直ぐに役所の門を鎖して、何んな急用があつても決して開けない。れ剩けに日々兵勇を役所に詰切らせて、防守れさおさ怠りないと云ふ風であるから、公事は悉く廢して了つて、不便極まりない形勢となつた。さうかと思ふと。

「名門嬬態本嬬成。睡起東窓日巳横。慣慣忽驚些小病。隔籬傳出請醫生。」これは支那の中流以上の家庭に於ける婦人を詠じた詩で實に此の通りでございます。

突然明治御維新の際を見るやう、即ち長江一帯の厳査が始まるかと見ると、今度は。

「如何に各方、日外巡警學堂の變あつてより以來、革命黨の軍用手票と云ふもの、急に世間に顯れたではござらぬか。」

「如何にも貴殿の仰せある通り、軍票世間に顯るからは、正しく黨首孫逸仙、此の事ありしを聞き知つて、密かに中國に紛れ込み、萬事差圖を致すと見えたり、一刻も早く探め捕らずば、後日の悔を遺すは必定」

斯んな割白の後は、日夜急電四方に飛ぶと云ふ騒體。





●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金卅五錢 三ヶ月前金壹圓 六ヶ月前金貳圓 本邦税一ヶ月金拾錢
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回四十錢 特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門 電話六三番